

日本協同組合学会 Newsletter

Vol. 26 No. 3 (通巻 70 号)

2015 年 8 月 20 日

～第 35 回大会案内号～

発行 日本協同組合学会 責任編集 会長 柳沢敏勝
〒162-0826 東京都新宿区市谷船河原町 11 番地 飯田橋レインボービル 5 階
J C 総研 (日本協同組合総合研究所) 協同組合研究部内 日本協同組合学会事務局
TEL: 03-6280-7254 FAX: 03-3268-8761
E-mail: kyodo-gakkai@jc-so-ken.or.jp
ホームページ: <http://www.coopstudies.com/>

日本協同組合学会 第 35 回大会案内

第 1 日目 10 月 2 日 金曜日

会場: 岐阜大学応用生物科学部 (岐阜市柳戸 1-1) ※会場案内・交通案内は 7～8 ページを参照ください。

- 地域シンポジウム 13:30～17:00
- 理事会 17:30～19:30

第 2 日目 10 月 3 日 土曜日

会場: 岐阜大学応用生物科学部 (岐阜市柳戸 1-1)

- 個別論題報告 9:15～11:45
- 大会シンポジウム 12:45～16:15
- 総会・新理事会 16:30～17:45
- 交流会 18:00～19:50

第 3 日目 10 月 4 日 日曜日

- エクスカージョン 8:45～16:00 (予定)

<申込案内>

基本参加費: 会員 1,500 円 非会員 2,000 円 (報告要旨集のみ希望者 1,800 円)
地域シンポのみの参加の場合、資料代のみ 500 円。

交流会参加費: 一般会員 4,000 円、学生会員 3,000 円 (参加申込ハガキでの事前申込)

エクスカージョン: 4,500 円 (昼食代 1,200 円、旧今井家住宅入場料 250 円込み、参加申込ハガキでの事前申込)

※第 1、2 日目の昼食について

10 月 2 日～3 日は大学生協食堂が営業しています。「岐阜大学」バス停近くにコンビニ店もあります。

☆同封の参加申込ハガキに必要事項を記入の上、**9 月 11 日 (金) 必着**で送付して下さい。

また、学会参加者・報告要旨集希望者は、必要な代金を下記口座に**9 月 25 日 (金) まで**に振り込んで下さい。

振込口座

郵便振替 加入者名: 日本協同組合学会 口座番号: 00140-5-557520
農林中央金庫 本店 (958) 日本協同組合学会 口座番号: NO. 5026910

実行委員会連絡先

岐阜大学応用生物科学部 (〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1)

実行委員長 荒井 聡 TEL&FAX: 058-293-2895 arai@gifu-u.ac.jp

<学会事務局からのお願い>

- 当日は受付での混雑が予想されますので、事前申込と事前支払へのご協力をお願い致します。
- 会場へは受付を済ませてからお入りください。(第2日目からご参加の場合も同様です)
- 会期中は、受付でお渡しするネームプレートの着用をお願い致します。
※近年、受付を済ませないまま、必要な参加費を支払わずにシンポジウムや交流会等に参加する方が見られるようですので、上記のとおり注意喚起をさせて頂きました。

10月2日(金) 地域シンポジウム

日 時： 10月2日(金) 13:30~17:00

会 場： 岐阜大学応用生物科学部101室 (応用生物科学部棟1階)

テーマ： **地域の暮らしと協同組合の役割 ―岐阜県下の実践を中心に―**

解 題：

グローバリゼーションの進行とともに地域産業の空洞化、過疎化が顕在化して久しい。昨今の「構造改革」政策により、それはさらに加速され、地域における生活基盤がゆらいできている。特に中山間地域において問題化してきている。

他方で、地域の生活に目を転じれば、こうした状況に対応・対抗し、これまでの支え合いを基礎として、新しい協同の取り組みが始まっている。生産者と消費者との交流、地域資源を有効利活用した商品開発、買い物支援など、生活や経営の自立を支える新たな仕組みが創造されてきている。

そこで、本シンポではこうした地域内発的な協同の取り組みにより、暮らしと経営がどう支えられているか、岐阜県下の実践例を中心として考えていく。もって、今日における地域の暮らしと地域産業の振興に果たす協同組合の役割、協同組合間提携の課題についても考える。また、この視点から、政府の成長戦略、規制緩和策等が、地域の実態にあった提起なのかどうかについても検証する。

コーディネーター：荒井 聡 (岐阜大学)

第1報告 「美濃酪連の地域における協同組合の役割」

丸山伸二 (美濃酪農農業協同組合連合会 参事)

第2報告 「岐阜県森連が進める森林・林業の情報化への取り組み」

廣田智行 (岐阜県森林組合連合会 森林整備課長)

第3報告 「地域に広める協同組合と広報の役割」

澤田俊勝 (ぎふ農業協同組合 組織部長)

第4報告 「JAめぐみのと協同した買い物支援の取り組み」

塚田 淳 (生活協同組合コープぎふ 多治見支所長)

コメンテーター：有本信昭 (岐阜大学名誉教授)

志波早苗 (パルシステム生活協同組合連合会、本学会副会長)

10月3日(土) 午前 個別論題報告・テーマセッション

日時： 10月3日(土) 9:15~11:45

会場： 岐阜大学応用生物科学部(応用生物科学部棟 3階31~34教室、2階21教室)

2015年度日本協同組合学会第35回大会個別論題報告・テーマセッション一覧

会場	座長	報告順	報告者	報告タイトル
(3階31教室)	小松泰信 (岡山大学)	第1報告	瀬津孝(農業開発研修センター)	JAのガバナンス問題の構造と制度問題の検討
		第2報告	小池恒男(農業開発研修センター)	地域社会で果たすべき協同組合の役割についての考察
	成田拓末 (東京農工大)	第3報告	伊藤亮司(新潟大学)・中村勝則(秋田県立大学)・千葉あや(JC総研)	産地間競争の現局面と全農系統コメ共販の課題 —東日本の主要産地を中心に(第2報)—
		第4報告	及川洋平(岡山大学大学院)・小松泰信(岡山大学)・大仲克俊(岡山大学)	JA青年組織への期待と課題 —ポリシーブックへの取り組みに基づいて—
		第5報告	小松泰信(岡山大学)・宮永均(秦野市農業協同組合)	農産物直売所の環境対策に対する出荷者・利用者の意識 —「はだのじばさんず」の事例に基づいて—
(3階32教室)	板橋 衛 (愛媛大学)	第1報告	李侖美(秋田県立大学)	水田・畑・樹園地にまたがる大規模農業経営が直面する課題 —季節雇用労働力確保の困難をめぐって—
		第2報告	軍司聖詞(早稲田大学)	農業分野における外国人技能実習制度の活用とJAの役割 —熊本県八代市・宇城市の事例—
		第3報告	高橋 祥世(北海道大学農学院)	福岡県N農協における生活活動と農協女性部の役割
	北川太一 (福井県立大)	第4報告	村上真理(広島大学)	JAの組合員制度における価値共創
		第5報告	渡辺克司(鹿児島国際大学)	生協コープかごしまの商品政策と産直事業の現状と課題
(3階33教室)	走井洋一 (東京家政大)	第1報告	田中夏子・石毛鏡子(市民福祉サポートセンター)・上林得郎(神奈川県地方自治研究センター)・小林幸治(市民がつくる政策調査会)・岡田百合子(NPO法人ワーカーズ・コレクティブ協会)・白井和宏・橋本牧(ともに市民セクター政策機構)	社会的排除との闘いにむけた地域社会の新たな循環形成とディーセントな働き方創造のために ~ワーカーズ・コレクティブの協治構造に関する調査に依拠して~
		第2報告	大高研道(聖学院大学)	社会的企業と「中間的就労」(1)
	鈴木 岳 (生協総研)	第3報告	青木美紗(奈良女子大学)	生協の取引先を中心とした食料生産・加工団体によるネットワーク形成とその可能性
		第4報告	三浦一浩(地域生活研究所)	生活全般の協同を試みた「総合生協」の可能性—東京の生協運動史から—
		第5報告	伊丹謙太郎(千葉大学)	大学における協同組合教育と地域協働カリキュラムの構築 —千葉大学における取組を中心に—
(3階34教室)	関 英昭	第1報告	堀井真理生(福井県中小企業団体中央会)	労働者協同組合法制化議論における企業組合への曲解について
		第2報告	丸山茂樹(参加型システム研究所)	グローバル社会的経済フォーラム(GSEF)の創立と展開
	相良孝雄 (協同総研)	第3報告	久保隆光(明治大学)	オランダにおけるワーク・ライフ・バランス政策の概念整理
		第4報告	津田直則(桃山学院大学)	伊・イモラの協同組合コミュニティ・社会的経済
	丸山茂樹	第5報告	李香淑(iCOOP協同組合研究所)	韓国における親環境農業人の実態と意識 —iCOOP生産者会の会員を中心に—
(2階21教室)	テーマ セッション 『言説空間における日本の労働統合型社会的企業』 藤井敦史(立教大学)	第1報告	藤井敦史(立教大学)・朴貞仁(立教大学大学院)	日本における障害者の就労と労働統合型社会的企業
		第2報告	原田晃樹(立教大学)	コミュニティ・ビジネス領域における労働統合型社会的企業
		第3報告	熊倉ゆりえ(明治大学大学院)・菰田レエ也(一橋大学大学院)	日本の労働者協同組合運動とWISE
		第4報告	今井玲(立教大学)	若者就労支援と社会的企業
		第5報告	菰田レエ也(一橋大学大学院)	「生活困窮者」の就労支援と労働統合型社会的企業

○報告時間: 報告20分、質疑10分

○第1報告: 9:15~9:45 第2報告: 9:45~10:15 第3報告: 10:15~10:45 第4報告: 10:45~11:15 第5報告: 11:15~11:45

○今大会では、個別論題報告等の要旨は大会要旨集には掲載せず、事前に学会HP上でアップしますのでご確認ください。

○休憩室は、終日1階第11教室となります。

10月3日(土)午後 大会シンポジウム

日時： 10月3日(土) 12:45~16:15

会場： 岐阜大学応用生物科学部101室(応用生物科学部棟1階)

テーマ： **未来社会にむけた協同組合の選択：サステナブルな「協同のプラットフォーム」づくり**

座長解題： 北島健一(立教大学)

世界を見渡すとこの20年ほどのあいだに、長期的失業者や公的扶助受給者の増加などの社会問題を背景に「社会的企業」(とくに就労支援分野の社会的企業)を法制化する国が増えている。また協同組合や共済、コミュニティベースの組織などを広く包含した「社会的経済」ないし「社会的・連帯経済」を法的に認知する国や地域も増えつつある。また、国連、ILO、UNRISDや欧州議会、欧州委員会などの国際機関も社会的連帯経済や社会的企業に注目を寄せ、その強化に向かって取組を強めている。

このような背景には、市場経済の一層の深化、グローバル化の下で、経済的に発展した国、途上国を問わず、貧困や格差の拡大、不安定な就労形態の増加、環境・文化の荒廃(日本でもたとえば耕作放棄地やシャッター街の増加、地域文化の衰退)、労働の場や地域でのコミュニティの劣化(社会関係、人間関係の希薄化)などが深刻になってきており、それらへの抵抗・反動として、世界中至る所で、社会的・連帯経済のイニシアチブが強まっていることがある。とくに、そのなかで「新しい世代」の協同の取組が広がりつつある(労働の協同組合、福祉の協同組合、環境やまちづくり分野のNPO、社会的企業など)。

また、その一方で、経済の低迷や財政難のために、政府や国際機関の側で、人口の高齢化の問題も含めて、それらの噴出する社会問題や環境問題に対応することが難しくなっていることも、社会的・連帯経済への世界的な注目の背景にある。

各国また地域で進められつつある社会的・連帯経済の法的な認知は、既存の伝統的な形の協同組合(消費の協同組合、農業者の協同組合など)をカバーするだけでなく、新しい世代の協同のイニシアチブも含めて法制化しており(韓国はその典型的な事例)、伝統的な協同組合陣営からみれば、協同のウィングが広がる方向に向かっていることを示している。またその法的認知は、単に特定の政策目的(就労支援や福祉サービスの供給)への貢献ではなく、協同の組織、その活動自体が生み出す固有の価値を認めてのものであると考えて良い。それは、20世紀、とくにその後半に築き上げてきたわれわれの経済・社会のシステム、国家と市場の二元的な世界が全体的に行き詰まってきており、ソーシャル・イノベーションが求められていることを示唆している。

また、社会的・連帯経済が法的に認知される背景には、新しい協同のイニシアチブが提起する価値を共有し、既存のものに代わる新しい公的な価値を創出し、それを正当化していくネットワーク組織、協議組織が、全国レベルや地域レベルで形成されていることも見逃せない。

わが国も欧米諸国と類似の社会的な課題(貧困・格差、不安定就労、高齢化、地域の荒廃、コミュニティの劣化など)を抱え、その一方、新しい協同のイニシアチブも生まれている(労協やワーコレの活動領域の拡大、農村女性起業、集落ぐるみの営農組織、若者支援や就労支援の事業組織など)。また、協同労働の法制化の運動を通して、協同組合同士の繋がり、また一定のウィングの広がり(共同連)も見られたし、IYC実行委員会、そこの憲章づくりを通して協同組合同士のいっそう広い横の繋がりもできはじめている。

ところが、そのような協議体の持続性は心許ない。また、社会的・連帯経済の公的な認知はもちろんのこと、この間、粘り強く進められてきた協同労働の協同組合の法制化でさえ依然として実現していない。また、公的扶助受給者のアクティベーションに踏み込みつつも社会的企業の明確な位置付けさえしていない。政府はむしろ協同組合を後ろ向きにしかみておらず、従来型の社会経済システムの枠内での経済成長頼みの思考に囚われている。このような政府の後ろ向きへの対応、協同組合の協議体の形成の未発達の原因の一端は、日本の協同組合法制が業態法として制定され、行政サイドで政策目的を達成する道具として位置付けられていることにある。協同組合サイドも、それを自らの正当化の拠り所としてきたのではないだろうか。

20世紀型の経済社会システムが行き詰まりを見せている今こそ、協同組合、さらに広く社会的・連帯経済の固有の経済的、社会的な価値を改めて問い直し、それと並行して、新しい公的な価値を創造していくべく、社会的・連帯経済の持続性のあるプラットフォームの構築に向けて議論を深めるべきではないのだろうか。

- 座長解題 北島健一（立教大学）
- 第1報告 「韓国における協同組合運動の新展開：協同組合基本法によって拓かれる新しい協同」
金 亨美（財団法人iCOOP 協同組合研究所）
- 第2報告 「多様な市民アソシエーションと新しい協同」
馬頭忠治（鹿児島国際大学）
- 第3報告 「社会的・連帯経済の担い手としての協同組合」
富沢賢治（聖学院大学）
- 第4報告 「「生活の協同」と生活協同組合の役割・制約・可能性：愛知における実践をふまえて」
向井 忍（NPO 法人地域と協同の研究センター）

会員総会

上記大会シンポジウム終了後に、以下のとおり会員総会を開催します。多くの会員の皆様のご出席を期待します。

日 時： 10月3日（土） 16：30～17：45（理事改選後の新理事会含む）

会 場： 岐阜大学応用生物科学部101室（応用生物科学部棟1階）

主な議題：①2014年度事業報告および2015年度事業計画

②2014年度決算報告および2015年度予算

③第18期役員選出の件 ※

④その他

※理事への立候補を希望する会員は、各ブロックの理事選出委員にその旨意思表示できます。会員名簿にある各ブロックの理事選出委員については、学会事務局にお問い合わせください。

交流会

日 時： 10月3日（土） 18：00～19：50

会 場： 岐阜大学生協第2食堂（8ページ参照）

参加費： 一般会員4,000円、学生会員3,000円です。

準備の都合上、参加申込ハガキで事前に申し込んで下さい。なお、交流会参加費振込後は返金いたしません。

2015年度日本協同組合学会 第1回理事会開催案内

大会1日目の10月2日（金）に、2015年度第1回理事会が下記の要領で開催されます。理事の皆さまは、ご出席くださいますよう、ご案内いたします。詳細は別便でお送りします。

日 時： 10月2日（金） 17：30～19：30

会 場： 岐阜大学応用生物科学部1-A会議室（応用生物科学部A棟2階）

主な議題：①2014年度事業報告および2015年度事業計画

②2014年度決算報告および2015年度予算

③その他

※標記理事会に関するお問い合わせは、下記の学会事務局までお願いいたします。

J C総研（日本協同組合総合研究所）協同組合研究部内 学会事務局 小川直人・千葉あや

TEL:03-6280-7254 FAX：03-3268-8761 E-mail:kyodo-gakkai@jc-so-ken.or.jp

10月4日(日) エクスカーション

〔企画趣旨〕

1日目の地域シンポの内容とも関連させながら、長良川中流域における協同組合の現場を視察し、豊かな自然に恵まれた岐阜県の山、川、平野とそこで営まれる暮らし、文化を感じ取っていただけたらと思います。世界農業遺産候補地となっている長良川流域の食・農・文化・暮らし、そこで展開される協同組合の活動を見て歩きます。(コースが変更になる場合があります)

- ・岐阜ワシントンホテルプラザ 8:45 集合
※各務原 I C から東海北陸自動車道経由
- ・美濃酪農農業協同組合連合会工場 (美濃市生節 472) 9:40-10:40 (説明・見学)
- ・和紙とうだつの上がる美濃の古い町並み視察 11:00-12:10 (説明・見学)
旧今井家住宅 (市指定文化財)・美濃和紙 (ユネスコ無形文化遺産) 問屋
小坂酒造・小坂家住宅 (国重要文化財)・地元農家と連携した酒米作り
- ・地元の長良杉が使われている J A 直売所「道の駅 美濃にわか茶屋」(説明・昼食) 12:30-14:00
- ・生活協同組合コープぎふ芥見店 14:30-15:00 (説明・見学)
※コープぎふの担当が同乗して移動中に車内説明
- ・岐阜公園・鶴飼乗船場付近 15:30 頃
(長良川鶴飼い参加者、岐阜城見学希望者等途中下車)
- ・名鉄岐阜駅 15:45 頃、J R 岐阜駅 15:50 頃

参加費 4,500 円 (昼食代 1,200 円、今井家住宅入場料 250 円含む)

※<開催校企画>「長良川鶴飼い(2015年国無形文化財指定)ツアー」 申込を締め切りました。

申込済みの方のみに別途、直接に連絡をさしあげます。

<タイムスケジュール>

17:45 頃 鶴匠による鶴飼説明、鶴飼い船乗船(貸切予定)、(船上で鶴飼い弁当)

19:45 頃 鶴飼い開始 20:30 下船

宿泊について

各自手配して下さい。

なお、農協観光岐阜支店による岐阜ワシントンホテルプラザ(シングル・朝食付き 8,580 円)の予約は、8月末まで延長して受付を行います。ニューズレターの前号(通巻 69 号)の 4~6 ページを参照のうえ、農協観光岐阜支店(TEL:058-276-5020/FAX:058-276-5024)へ直接申し込んで下さい。

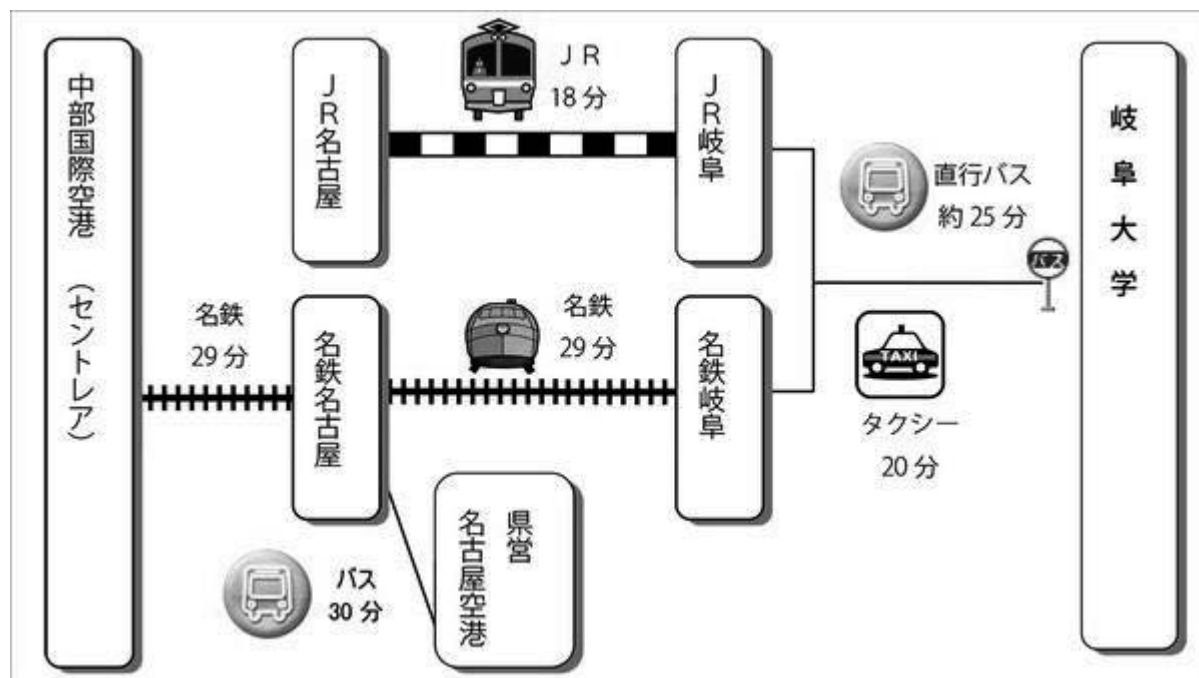
また、10月3日~4日は岐阜市中心部で「信長祭り」が開催され、多少の混雑が予想されます。宿は早めの手配をお勧めします。

会場案内 (アクセス)

岐阜大学応用生物科学部 (住所: 〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1)

<http://www.abios.gifu-u.ac.jp/>

<http://www.gifu-u.ac.jp/access/>



JR 及び名鉄岐阜駅前からの路線バスは以下の2系統が利用できます。それぞれ「岐阜大学」で下車して下さい (運賃はいずれも 320 円です)。所要時間はおおよその目安であり、交通事情により異なる場合がありますので、余裕を持ってお越し下さい (清流ライナーおよび直行バスは主要バス停以外には停車しません)。

両駅前のバス亭位置は、次ページの案内図をご参照ください。

- 岐阜大学・病院線 (バス系統 C70) : 所要時間約 30 分 (直行バスで約 25 分)
JR 岐阜駅前 ~ 名鉄岐阜駅前 ~ (忠節橋経由) ~ **岐阜大学** ~ 岐阜大学病院
乗車バス停名 : JR 岐阜駅 (北口) バスロータリー 9 番のりば
乗車バス停名 : 名鉄岐阜駅 5 番のりば
- 岐南町線 (バス系統 N45) : 所要時間約 35 分
岐南町三宅 ~ JR 岐阜駅前 ~ 名鉄岐阜駅前 ~ (長良橋経由) ~ 長良北町 ~ **岐阜大学**
~ 岐阜大学病院
乗車バス停名 : JR 岐阜駅 (北口) バスロータリー 9 番のりば
乗車バス停名 : 名鉄岐阜駅 4 番のりば

JR 岐阜駅及び名鉄岐阜駅からのタクシー利用の場合、料金の目安は約 3,000 円です。

